

街フォト スクラップ

みんなのイマをパシャ!!

戦後70年

戦争の悲惨さと 命の大切さについて考える



8月9日～18日までリナシティかのやで、戦後70年特別企画展「鹿屋の記憶」が開催されました。

これは、市内3つの海軍飛行場の誕生から終戦後の進駐軍上陸までの写真や資料などの展示を通して、命の大切さや平和の尊さについて考えてもらおうと行われたもの。

9日はオープニングセレモニーが行われ、テープカットが行われた後、中西市長が「鹿屋は真珠湾攻撃について話し合われた『鹿屋会談』が行われ、また戦後初めて進駐軍が本土に上陸した地です。企画展を通して平和について考えてほしい」と挨拶しました。

また期間中は15日に特攻隊員をテーマにした歌語り「万歳峠」、18日には米軍機に搭載されたカメラの映像公開を実施。参加者は真剣な表情で見入っていました。



平和へのメッセージを発信 かのや未来創造プログラム〜平和の花束2015〜



8月18日、リナシティかのやで「かのや未来創造プログラム〜平和の花束2015〜」が開催されました。これは、平和や人権について考え、多くの特攻隊員が出撃していった鹿屋の地から平和のメッセージを届けることを目的に行っているもの。

第1部では、平和へのメッセージコンテストとして、昨年の倍となる応募総数1,465点の中から最優秀賞に輝いた3作品の表彰と本人による朗読を実施。第2部では、鹿屋の語り部による戦争体験談や特別講演が行われ、戦争のない平和な世界の実現に向けて発信しました。

終戦の日に恒久平和を誓う

8月15日、小塚公園慰霊塔前広場で終戦記念日の集いが行われました。

これは戦争の歴史を次代に語り継いでいくことを目的に、鹿屋航空基地史料館協力が毎年行っているもので、今年で20回目。

当日は旧海軍関係者や市民など約20人が参列。国歌を斉唱した後、参加者全員で黙祷し、節目の戦後70年に改めて戦没者の冥福を祈り、恒久平和を誓っていました。



地域

光の中で伝統芸能を楽しむ



8月1日、吾平中央公園で「第2回美里あいら伝統芸能祭」が開催されました。

当日は持田棒踊り、そば切り踊り、吾平八月踊りといった吾平の伝統芸能のほか、保育園児の演技や地域女性団体の踊りなどが披露されました。会場を訪れた大勢の観客は、会場を彩る七夕飾りや幻想的な竹灯籠の明かりの中で、伝統芸能に熱心に見入っていました。

鹿屋体育大学とMBCが連携を密に



8月4日、鹿屋体育大学で、同大学と(株)南日本放送(MBC)との地域貢献事業に関する連携協力協定の調印式が行われました。

これは地域のスポーツによる発展と住民の健康増進に寄与することを目的とした番組制作と放送事業に関して連携するために締結されたもの。今後、スポーツを通じた地域活性化や健康増進の更なる啓発が期待されます。

「関東串良会」総会



7月19日、東京のスクワール麹町で「関東串良会」総会が開催され、約1000人の会員の出席がありました。

総会後の抽選会では、ふるさとから提供された焼酎や農畜産物のお土産を獲得するたびに歓声があがりました。また、全国大会初出場のパレーボールチーム「串良クラブ」への支援金活動もあり、多くの会員から寄附が寄せられました。

吾平の魅力再発見



8月9日、吾平町内で「吾平史跡巡り」が開催されました。

当日はまち歩きの人達として知られる東川隆太郎さんが講師として参加し、吾平町に数多く残る史跡の中から鶴戸神社・吾平駅跡などを巡り、それぞれにまつわる歴史などについて解説。

参加者は、講師の話に熱心に聞き入り、吾平の魅力を再発見していました。

被害を最小限度にとどめるために



8月27日、西原4丁目の土砂災害警戒区域・急傾斜地被害想定区域で、「西原4丁目地区土砂災害避難訓練」が行われました。

これは土砂災害が発生した時の被害を最小限にとどめることを目的に行われたもので、地域住民や市、消防、警察など関係者76人が参加。

参加者は、緊張感を持って真剣に訓練に取り組んでいました。

スポーツ

威勢の良い掛け声が響く



8月6日から8日まで、市体育館で高校生を中心とした空手道交流事業が行われました。

合宿には、全国高校総体団体、個人で優勝した浪速高校をはじめ、九州各地の強豪校や地元から19チーム延べ約620人が参加しました。

参加チームは、暑さに負けない気合のこもった掛け声を響かせながら、日本一の技術を学んでいました。